

那珂市議会原子力安全対策常任委員会記録

開催日時 令和元年12月13日（金）午前10時

開催場所 那珂市議会全員協議会室

出席委員 委員長 助川 則夫 副委員長 綿引 孝光
委員 小池 正夫 委員 富山 豪
委員 花島 進 委員 中崎 政長

欠席委員 なし

職務のため出席した者の職氏名

議長 君嶋 寿男 事務局長 寺山 修一
事務局次長 飛田 良則 書記 小泉 隼

会議事件説明のため出席した者の職氏名

陳情説明者 小山 祐子

会議に付した事件

- (1) 陳情第8号 東海第二原子力発電所の再稼働に反対する陳情
…継続審査とすべきもの

議事の経過（出席者の発言内容は以下のとおり）

開会（午前10時00分）

委員長 改めまして、おはようございます。

常任委員会最後になります原子力安全対策常任委員会にご参集をいただきまして、まことにありがとうございます。

今年は気象庁の予報ですと暖冬かなというような予報も出ておるようでありますけれども、今日、寒暖の差が大分激しい気象状況のようでございます。各委員におかれましては、体調を崩さぬようしっかりと自己管理をしていただき、議員活動、議会活動をよろしくお願いを申し上げたいと思います。

本日は、陳情が1件出ております関係上、それに当たりましての審議になります。どうぞ慎重なご審議を賜りますようお願い申し上げまして、ご挨拶にかえさせていただきます。

開会前にご連絡をいたします。

会議は公開しており、傍聴可能といたします。また、会議の映像を庁舎内のテレビに放送します。会議内での発言は必ずマイクを使用し、質疑・答弁の際は簡潔かつ明瞭をお願いをいたします。

携帯電話をお持ちの方は電源をお切りいただくかマナーモードにさせていただきたいと思っております。

ただいまの出席委員は6名であります。欠席委員はございません。定足数に達しておりますので、これより原子力安全対策常任委員会を開会いたします。

職務のため、議長及び議会事務局職員が出席をしております。

ここで議長よりご挨拶をお願いいたします。

議長 皆さん、おはようございます。本日は、原子力安全対策常任委員会への出席ご苦労さまです。

ただいま助川委員長からもお話がありましたように今期定例会、常任委員会での審議、最後となり、また、私たち任期中の委員会としての審議もこれが最後となります。

本日は、東海第二原子力発電所の再稼働に反対する陳情が上がっておりますので、皆様方、慎重なるご審議のほどよろしく願いをいたしまして、挨拶にかえさせていただきます。ご苦労さまです。

委員長 これより議事に入ります。

本委員会の会議事件は、別紙会議次第のとおりであります。

初めに、陳情第8号 東海第二原子力発電所の再稼働に反対する陳情を議題といたします。

この件については、提出者から内容説明の申し出がありましたので、ご説明をいただいた後、内容について審査を行う形といたします。

それでは、説明者に入室をしていただきます。

暫時休憩いたします。

休憩（午前10時03分）

再開（午前10時04分）

委員長 それでは、再開をいたします。

提出者の小山様より陳情内容の説明をお願いいたします。

説明については簡潔に5分程度でお願いいたします。また、説明の前に自己紹介をお願いいたします。

陳情説明者 初めに、この場を与えてくださったことに感謝をささげたいと思います。

私は、東海第二原子力発電所の再稼働に反対する那珂市民の会の小山祐子と申します。どうぞよろしくをお願いいたします。

さて、那珂市議会の議員の皆様に訴えます。

東海第二発電所は、1978年の運転開始から41年がたち、既に寿命を迎えております。そして、8年前の大震災でとまったままです。地震と津波で壊れたからです。40年の寿命を待たずして壊れてしまったのです。古くて壊れた原発は、このまま廃炉にするのが一番安全ではないでしょうか。最近、地震も多いですし、10年近くもとまったままの壊れた原発を動かすことはとても危険です。原則どおり廃炉にするのがよいと思います。

1月と5月に住民説明会に出席いたしました。驚いたのは、安全神話が崩れたので国も会社も過酷事故が起こることを想定しています。そして、過酷事故が起きたら、こういう対策をとるつもりだから、福島第一原発の事故のようにはならないはずだと説明するので

す。過酷事故が起こることを想定しているのであれば、なおさら動かしてはならないのではないのでしょうか。過酷事故は二度と起こしてはならないのに、彼らには真摯な反省が見られず、住民の命を守るという発想もありません。危険を承知で動かすのは、そこに住む人間やあらゆるものの命を軽く見ている証拠です。私たち住民の命は、軽く見られているのです。命こそ大切なもの、その命を粗末に扱われては、黙ってはおれません。再稼働には強く抗議いたします。

ここで、お配りしました資料をごらんください。

2016年度に市が実施した市民アンケートの結果です。

東海第二発電所の再稼働についてあなたはどう思いますかという問いに対して、これは資料の下のほうにございます。④のところです。東海第二発電所の再稼働について、あなたはどのように思いますかという問いに対して、「賛成」、「どちらかといえば賛成」を合わせると約20%であるのに対し、「反対」、「どちらかといえば反対」を合わせると実に約65%にもなります。

前那珂市長は、市民アンケートに示された民意を尊重して、再稼働に反対を表明したものと私は思います。新安全協定を結んだ6市村のうち、水戸市、常陸太田市の市議会は再稼働反対の意思を明らかにしております。

那珂市議会におかれましても、市民アンケートに示された約65%という多くの反対の声を真剣に受けとめ、危険極まりない東海第二原子力発電所の再稼働に強く抗議し、反対を表明していただきたく、住民の代表である議員の皆様に陳情いたします。

以上です。ありがとうございました。

委員長 ありがとうございました。

説明が終わりました。

ただいまの説明に対し、質疑がおありの方は質疑をお願いいたします。

質疑ございませんか。説明に対しての質疑でございます。

ございませんか。

花島委員 趣旨はわかりました。

それで、もし議会が表明するとしたら、どういう形なり、文案とか、そういうのはご用意でございますでしょうか。議会にお任せということですかね、それは。

委員長 じゃ、それに対して説明者の方、お願いいたします。

陳情説明者 最後に申しましたように、那珂市議会として東海第二原子力発電所の再稼働に反対を表明するという形としたいと思いますけれども、それで、議会として反対を表明していただきたく思います。

委員長 よろしいですか。

ほかにございませんか。

(なし)

委員長 なければ、質疑を終結いたします。

暫時休憩いたします。ここで、小山様はご退席をお願いいたします。

休憩（午前 10 時 11 分）

再開（午前 10 時 12 分）

委員長 再開をいたします。

これより各委員から陳情についてのご意見を伺います。

お一人ずつお伺いをいたしたいと思えます。

順に、それでは小池委員からお願いいたします。

小池委員 ただいまの陳情をお聞きいたしまして、私もこの委員会に入りましてまだ1年足らずで、勉強会も1回ほど。それで、先日の大震災におきまして、福島第一原発であのような、原発というものが確かに安全であると、私たちも小さいころから東海村に原発があるのは重々わかっておりまして、何ら問題はないんだろうと。それがやはり私たち一般市民の感情だったんでしょうけれども、あのような被災、ああいうような大きな事故があったということで、今回のように考えさせられるということになったと思うんです。

今回の震災の状況などを見ても、私としては、自分の家で農家もやっておりますし、いろいろやはり障がいを持った子供もおります。もし事故などが起きたときのこととか、いろいろそういうことを、情報を得て考えてみるといろいろな思いがございます。

そして、今提出されました、前にも見たことあるんですけども、この市民アンケートの結果、那珂市民へのアンケートだと思うんですけども、この中で「賛成」のパーセンテージ、「反対」のパーセンテージ、「わからない」というパーセンテージ、これが私たちの考えの中でも反映されてはいることなんだと思うんですけども。ただ、再稼働するにしても、それを廃炉にするにしても、よくよくの審議があつて、それでやっていかななくてはならないことだと思っております。

やはり原発は原発で携わっている方もいらっしゃるんでしょうし、また、我々にしてみれば、非常に危険なものという認識になってしまった。今、化石燃料などで随分、日本はたたかかれて問題化されております。原発は原発でクリーンエネルギーということで、そういう二酸化炭素も出さないと。そこで、やはりもっと突っ込んだところでいろいろと意見交換しながら、審議をもうちょっと重ねて、私自身ももっともっと勉強してみたい、その中で判断をしていきたい。そういうふうに思っております。

以上です。

富山委員 今回の陳情の趣旨、老朽化が非常に心配であるということは十分理解しております。私も4年間、原子力安全対策常任委員会のほうに籍を置かせていただきまして、同様な似たような趣旨の陳情が4回ぐらいは、年に1回ぐらいはあつたんじゃないかなと思っております。その間、一貫して私は言わせていただいておりますのが、その賛否も含めました効力を最大限に使うということは、近隣の市町村と足並みをそろえることが重要であると

いうのは前から言わせていただいております。あと、これだけ非常に重い、重要な問題ですから、これも前も言いましたが、市議会全体でもっと闊達な議論をとということで、2度ほどの勉強会となったわけですが。陳情者の方も議会としてと言っておられました、本当に非常に重要で重い問題だと捉えております。議会内の議論をもっと闊達に行うべきであると私は思っております。

今現在、近隣市町村との話し合いじゃないですけども、意見交換なんていうのもゼロに等しいような状況で、やってもいないという中で、今、首長懇談会で市長さん方が今一生懸命、再稼働の是非についても話し合っている状況なので、私はまだ、今ここで判断するのは時期尚早と考えております。

以上です。

中崎委員 趣旨は非常によく理解をしております。市民のアンケートも6割5分ぐらいが反対であるというような調査結果が出ております。

この原子力安全対策常任委員会としましても、賛成の立場のドクター、博士を呼んで勉強をし、そして反対だという博士の勉強会もしました。

この委員会としても、今結論を出すのはいかがなものかと。もう少し我々としても、あるいはこの委員会としても、議会としてももう少し闊達な意見を述べ合って出すべきではないかなと、そういうふうに思っております。

花島委員 私は多分、皆さんといろいろ立場が違って、1つは、まず第一に、明確に東海第二の運転再開には反対だということですね。なぜそう考えるかという背景から若干述べますと、まず私は、基本的な素養として、学校で物理学を学んできました。それとは別に父がエンジニアだったこともあり、いろいろ技術的な、工学、物の加工とか、そういうものも学んできて、そういうことにも関心があります。それから、大学で物理を学ぶのと並行してエレクトロニクスとかコンピューターのことを独学で勉強しまして、複雑なものの管理とか、それから、信頼性を上げるにはどうしたらいいとか、そういうことを学んできたわけです。

それで、私が大学院にいたころに、まさに卒業間際にスリーマイル原発事故が起きました。それは、詳しいことは調べてはいないんですけども、基本的なことは理解しているつもりです。

次が、原子力研究所というところに入りまして、原子力研究所ではありますが、基礎部門の仕事をしていまして、加速器という基礎的な研究をするための制御システムとか、やはり複雑なものを管理したり開発したりする仕事をしてきています。

そのころ、原発に関していろいろ危惧の声があった、その一部として、地震のこと、非常に大きな地震があり得るんだということを主張している方がいるというのを知りました、ちょっと今、名前は覚えていないんですが。そのときは、果たしてそれは本当だろうかみたいにして思っていたんですね。本当だとしたら、やはり大変だと。一方、システムを管理す

るという立場から考えると、原発みたいな複雑なシステムをきちっと管理するというのは非常に難しいということは考えていました。ただ、具体的に原発システムを見たり、あるいは直接携わっている方の話をそのときは聞いていませんでしたので、やるべきじゃないと思うところまではいっていませんでした。ただ、非常に難しい課題だと思っていただけです。

その先で、チェルノブイリの原発事故がありました。これについては、原子力関係の方々の多くは、あれは日本で使っている原発とは形式が違う。日本の原発は皆さんご存じだと思うんですが、沸騰水型というのと加圧水型なんですけれども、チェルノブイリで事故が起きたのはちょっと違うんですね、RBMKと言ったかな。全然構造が違います。それが由来だというふうに言われていました。ですけれども、非常に大きなエネルギーを扱っていて、そしてそれが破綻したら、大量の放射能が放出するという点では変わりはないですね。

その先ですが、いよいよ何年かたって福島第一原発事故が起きました。実は私は、原子力研究所にいるときに、自分の仕事をしているだけじゃなくて、原研の中のほかの部署の仕事にも労働組合として関心を持つという活動をやっているんですけど、いろんな意見を言い、その中で批判的な意見を私が言ったわけじゃないんですが、組合員がこう言っているよという話をビラに書いたら目をつけられて、何か私があたかも批判したかのように、目をつけられて、何ていうんですかね、嫌がらせを受けたと言ったらいいのか、何と言ったらいいのかかわからないですけれども、出世の道を閉ざされた人間でもあるわけです。

そういう中で感じていたのは、批判的なことをちゃんと聞かないという姿勢が一部にあるということです。一部というか、大部分にあるんですね。

その次に、JCOの臨界事故がありました。このとき私は原研の労働組合の委員長をして、労働組合としての対応もいろいろやったんですが、それは横に置いておいて、非常に驚いたのは、あの臨界事故について、原子力関係の人が物すごく何ていうんですかね、安易に言った方がいいのとちょっと違うんですけれども、こういう事故だったらこうなるということを安易に考えていたんですね。つまり、一番起こりそうなことはこうだという考えがあって、それしか考えない。具体的には、臨界事故が起きたら爆発して終わると思っていたんですね。ところが、それは普通に論理的に考えればすぐおかしいとわかることなんです。にもかかわらず、そういうふうに多くの人が思い込んでいたというのは、私は非常に衝撃を受けまして、いろんな場面でちょこちょこ言っているんですが、世間の方々はそういうことを余り知らないですよ。

何がそれで問題かという、何か起きたらいろんな可能性を考えなければならない。特に原子力の場合はそうなんです。つまり、一番起こりそうなことをこれだといって、それに沿ってやればいいということではないんです。つまり、可能性の低いことでも考えながら、何かあったらそれに対処する、できるようにしなければいけないということなんで

す。

これは臨界事故についてだったんですが、同じようなそういう思考、考え方を持っていると、これはほかのものにも当てはまるんです。だから、例えば原発事故でこういうことが、どこかの装置が故障した、次に何が起こるか。そういうことを想像すると、いろんなことが起こり得て、どんどん大変になるんですよ。その大変なことを全て把握していなかったらだめだというのが原発の性質です。

大概の装置だったら、事故が起きても被害はゼロじゃないんですが、何ていうんですかね、社会はある程度受け入れていますね。例えば、皆さん車に乗っているけれども、車を運転したら事故が起こる確率があります。私が車に関心があったころ、大体1年間に日本の国内で1万人、交通事故で亡くなっていました。今は違いますよね、もっとずっと少ないです。それでも、そういう事故のリスクがあっても運転するというわけです。

じゃあ、原発を同じように考えていいのだろうかと考えたときに、仮に、先ほど命とおっしゃいましたけれども、命だけでいったら、ほかのいろんな科学技術の産物、それ以外のものを含めて、命の危険を冒すものはたくさんあります。ただ、原発の場合、違うのは、それが1つの事故で1人、2人じゃないということなんですよ。10人、100人でもない、何十万人に影響するということです。それから、命がなくならなくても、非常に多くの財産が失われる可能性があります。福島事故がそうですよね。明確に死んだ人はそんなに大勢いないですね。事故収集の作業で倒れた方がいる。あるいは原発事故が起きたために避難できなくなって亡くなった方がいる。それは直接放射能のせいじゃないだろうということですけれども、それでも亡くなる方がいる。あるいは、放射能で汚染されて、いろんな自分の生活の糧を失われて自殺なさった方がここ何人もいますね。そういう大きな被害を与えるというのは、ほかのものとはちょっと違うと思います。

福島事故でさえもあれだけでした。ちなみに福島事故の場合は、原発から放出された放射能の半分以上が海へ行っちゃったんです。だから、周辺の被害はあれで済んだ。でも、全部陸に行ったら、放射能レベルは多分2倍から3倍になっていた可能性があります。ということは、それだけ広い範囲がだめになる、あるいは帰れるときになるまでが時間がかかるということになります。

同じようなことが東海第二で起これば、これはもう想像にかたくないですよ。この周辺では、広域避難計画の策定とか言われていますけれども、私はあんなのは茶番だと思っていますね。というのは、逃げられたらいいんですかという話なんですよ。まず、避難計画で逃げられるかどうか怪しいというのは、それはもちろんあるんですけども、逃げられたらいいというわけじゃないということが大事なんです。でも、事故が別に起きない、全く起きないんだったら、それはそれで大丈夫です。いくら気持ちの上で心配してもね。でも、私は事故が起きないと思っていないんです。多分、起きないですよ。だけれども、先ほど言いましたように万全じゃなければいけない。

あるいは万全でも足りないという話があって、ある人は億全みたいなことを言っていましたけれども。それが今どうなのかというときに、福島事故の後、規制委員会ができて、それから新規制基準なるものができました。そこは、ある種のだましがありませんね、私から見れば。つまり、安全になることを担保しているんじゃないんですよ。私が技術者の立場から見れば、あの基準というのは、いくらか安全にして、そして今ある原発を何基か動かそうということを前提にした基準だと思っています。ということは、万全じゃないということなんですよ。

規制委員会の方々が非常に間違っているのは、地理的要因ということは全く考えていない。要するに原発で、非常に人のいないところで事故が起きると、東海第二みたいに周辺に人が大勢いるところで事故があるのとは、実は同じじゃないんですよ。ところが、全く考慮していないですよ。それもおかしいですよ。

でも、とにかく万全かといったら万全じゃないということです。いろんな人が安全だということをおっしゃいます。この間の澤田さんも半分そうですよ。彼は正直だから、半分しか言えないんです。評価ではこうですとか言えないんですよ。万全だと思っていない、思っているとは言えないわけです。中には万全だという人もいますよ。いるけれども、私から見ればもう余りにいいかげんなことを言う人がほとんどです。

それで、じゃどう考えるかということなんですけれども、原発を動かす必要が本当にあるんですかということが次にあります。100万キロワット、110万キロワットクラスの原発の発電といったら、例えば今、火力発電所ですか、ひたちなか市の海のそばにある、あれ2基で200万キロワットです。そのくらいの電気を起こせる。今、茨城県で太陽光発電で大体100万キロワットだと言われているそうです。あれはどんどんふえていきますからね、たった今どのくらいかわかりません。

一方で、彼らは将来のエネルギーとか言うんですね。でも、将来のエネルギーのかなりの分を原発で賄うとすれば、今の原発の数のレベルじゃ全然足りないんです。かなり多しなればならない。そうすると、本当に今の安全性でいいんですかということなんですよ。私は、実は技術者ですから、物をつくるのが好きだし、あるいはその技術の産物で何かをやるというのは、できればやりたい人間です。その立場から考えれば、なおさら今の原発は早々に放棄して、新しいことを考えなければいけない。それで私はできるとまでは言いませんよ、できるまでとは言いませんけれども、今の原発だったら使うに値しないし、まさにエネルギーの大部分を原発で賄おうとするときに、今の原発でやったら、世界中で一体どれだけの頻度で事故が起こると考えたら、もうばかといえようがないですよ、そんな今のでやろうなんて。将来のために言うんだったら、まさに今の原発は早々に諦めるというのが私の意見です。それはもう東海第二に限りません。東海第二については老朽化とか何とかありまして、それは私は危険要因がさらにふえただけで、全く全部やめにして新しくつくったって、安全になるとは思いません。全く新しい考え方でやるわけ

じゃないですからね。

そういうことで、私はこの陳情を採択していいと思います。ただし、皆さんがもっともっと議論したいというのであれば、それを否定するものではないです。私とほかの委員との提案で勉強会をやりましたよね。今度、選挙でまた人が入れかわるかもしれませんが、その中でみっちり検討しながら結論を出していくんだったら、それはそれで一つの案だと思います。私としては、ただ、これについては賛成だし、勉強していけば自然と結論はそうなるはずだと思っています。

以上、私の意見です。

副委員長 那珂市議会原子力安全対策常任委員会としまして、先ほどからございましたが、勉強会を開催して、精通者の意見を聞こうということで、賛成の方の意見、それと反対の方の意見を聞こうということで、事務局を介して講師の先生を探した経緯がございました。反対の先生はすぐ見つかったんですけども、賛成の先生がなかなか見つからない。そういう経緯もございました。こちらの陳情者の方の参考資料の中の市民アンケートで、反対の方が65%、那珂市民の65%の方が反対していると。そういうことを我々常任委員会の委員としても理解していくと、なかなかいわゆる賛成の先生が見つからなかったと同じように、原発は必要なんじゃないかという意見を言えば、2月の選挙にかなり影響するのではないかなんていうことも心配になります。

それはとりあえず別としまして、勉強会もまだたくさんやったわけではないし、議員同士の、あるいはこの常任委員会の委員同士の間で賛成、反対の議論を交わしたという経緯もほとんどないと思いますので、そういう意味ではまだまだ議論が足りないというふうに私は考えております。だから、もう少しこういう時間をつくって議論をすべきではないかという思いで、今回の陳情に関しましても近隣市町村がまだそういう意見をはっきり出していないという動向も考えまして、時期尚早というふうに私は考えます。

以上です。

委員長 ちょっと確認をさせていただきます。小池委員はまだ審議が足りないというお考えでございましたか。

小池委員 もうちょっと審議をして……

委員長 もうちょっと審議をしていきたいということで。

続いて、富山委員も確認をさせていただきますが、その件。

(「時期尚早」と呼ぶ声あり)

委員長 時期尚早ですね。中崎委員も同じですね。

それでは、花島委員は。

花島委員 私は採択すべきだと思っていますが、議論するんだったら、それはそれでしっかりやっていきたいと思います。ただ、私としては、時間は十分あったのに、2回の勉強会しただけですよ。ですから、ここで、はい、わかりました、継続審査と言ったら、

何かおかしいので、私は採択するほうに投じます。

ただ一言だけ、副委員長が、周辺が全然意思表示していないというのは、それは違いますよね。先ほど説明がありましたように、水戸市議会は賛成多数で反対の意思を表明していますので、誤解がないようにお願いします。

委員長 ただいまの質疑の中でご意見をお伺いした中で、継続審査というご意見がありましたので、お諮りをいたします。

陳情第8号を継続審査とすることに賛成の諸君の挙手を求めます。

(賛成者挙手)

委員長 賛成多数と認め、よって、陳情第8号は継続審査とすべきものと決定をいたしました。

以上で陳情第8号の審議を終わります。

本日の議題は全部終了いたしました。

以上で原子力安全対策常任委員会を閉会いたします。ご苦労さまでした。

閉会（午前10時36分）

令和2年2月26日

那珂市議会 原子力安全対策常任委員会委員長 助川 則夫